

第1回
(2018.4.10)

『大学図書館の魅力と研究活動』

松井啓之教授(経営管理大学院・図書館副機構長)

第1回：講義

- ・ 場 所：学術情報メディアセンター南館 303
- ・ 出席者：受講者 18 名 演習補助者 8 名
- ・ 配布物：PPT 講義資料(A4 片面 9 枚)、授業日程・講義構成(A4 両面 1 枚)、アンケート(A4 片面 1 枚)

授業の目的(附属図書館 北村准教授より)

- ・ この授業の目的は、図書館利用を中心とした文献・学術情報検索についてのスキルを獲得し、それを活用してプレゼンテーションやレポートで発表できるようになることである。

*** 松井教授講義 ***

講義の目的と内容

- 目 的：高校時代の図書館や公共図書館とは異なる、大学図書館の魅力と研究活動を理解する。
- 内 容：大学図書館が持つ意義と価値を考える。また図書館資料の概略や特性を理解する。

図書館とは

- ・ 「図書館」は明治時代に Library を訳した造語。博物館や公文書館と違い、図書館はすでにラベル付けされたものを収集する。

学生にとっての図書館とはどのような場か？

- ・ 資料と出会う場以外にも、静かに思索する場、コミュニケーションの場、研究のスキルを知る場など多様な機能を持ちうる。

図書館の成り立ち

- ・ 図書館の起源は、文化を移設して発展させていくということにある。古代アレクサンドリアの図書館はギリシャの知識を学ぶ場として設立された。
- ・ 図書館は、ヨーロッパでは教会の神学資料室として、日本では藩史編纂所として発展してきた。資料を集めて解釈し、知識を共有する場として始まった。当初は、一部の利用に限られていたが、印刷技術の登場により、公共サービスとしての性格を持つようになった。

様々な形の図書館

- ・ 図書館には様々な形態がある。国立図書館、公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館など、サービス対象によって分類することができる。
- ・ 20 世紀のアメリカでは、大学の役割について、良き市民を育てる場から良き研究者を育てる場へと考えに変化が生じた。
- ・ 世界で最初に大学院を設置したジョン・ホプキンス大学において、「図書館は大学の心臓である」という言葉で表されるように、図書館は大学の研究活動の根本を支えるものであるという風に捉えられるようになった。
- ・ 松井教授が実際に訪問したアメリカやオランダの大学図書館や公共図書館が写真付きで紹介された。

図書館の役割の変化

- ・ 書物における第一の革命として、印刷技術の登場により、書物が爆発的に流通するようになったことがある。
- ・ 現在は、インターネットの普及により電子的情報が爆発的に増える第二の革命の時代であり、図書館の役割も大きく変化しつつある。
- ・ 図書館には電子的情報の迅速な収集と発信という役割が求められる。

京都大学図書館はどのような場所か？

- ・ 学習室 24、共同研究室、ラーニングコモンズ、サイレントエリアのように、自学自習、読書、議論と多様な活動ができる空間が用意されている。
- ・ 学習サポートデスクのように、論文・レポートの書き方が学べる場所がある。
- ・ 多くの大学では貴重書となっているような貴重な資料に、学生が簡単に触れられるようになっている。
- ・ 京都大学の図書館は全国でもトップクラスの蔵書数を誇り、学習や研究を行う上で、恵まれた環境にある。

学術資料と大学図書館の今後

- ・ 図書は出版流通までに時間がかかる。短いサイクルで出版するために、論文という仕組みが考案された。このサイクルは資料の電子化とともにさらに短くなっている。

- ・ 近年、電子化された論文の価格高騰が問題になっている。
- ・ この問題への対処法として、論文のオープンアクセス化という取り組みがある。
- ・ オープンアクセスとは、インターネットを通じて論文を誰もが無料で閲覧可能な状態におくことを指す。大学図書館は研究成果のオープンアクセス化において、重要な役割を担う。
- ・ 京都大学は2015年4月に日本で初めてオープンアクセス方針を制定している。
- ・ 大学図書館は利用者の要望を受けてどんどん変化してきた。
- ・ 受講生も学部1回生、2回生、3回生、4回生、院生と、様々なレベルで大学図書館がどうなってほしいのか考えてみてもらいたい。

***** その他 連絡事項 *****

- ・ 第1回アンケートの記入・提出のお願い。

(記録：小松原 記子)